

# 進行・再発 胃癌

# ペムプロリズマブ+XELOX療法レジメン

HER2陰性の治癒切除不能な進行/再発 胃癌

< 21日間隔・最大35コースまで >

G-41

治療日		第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7~14日目	第15日目	第16~21日目	第22日目	
治療内容												
検査	採血	○									○	
	胸部X線	○									○	
診療	副作用の問診	○									○	
	検査結果	○									○	
治療中止基準	XELOX ①好中球 1,500未満 ②血小板 7万5千未満 ③発熱・CRP上昇 ④PS 2以上	ペムプロリズマブ ①G2以上の肺臓炎 ②副腎クリーゼの疑い ③G3以上の皮膚障害・神経障害 ④AST、ALT>3×ULN ⑤T-Bil>1.5×ULN ⑥Cr>1.5×ULN ⑦G2以上の下痢 ⑧自己免疫疾患の発症疑い										
内服薬	ゼローダ錠2,000mg/m <sup>2</sup> /日	↓ (夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓↓ (朝・夕)	↓ (朝)	休	↓ (朝・夕)
点滴	①生食 50mL 点滴静注【全開】	○										○
	②生理食塩50ml +キイトルーダ 200mg 点滴静注【30分】 フィルター付きルートで	○										○
	③生食 50mL 点滴静注【全開】	○										○
	④生食100mL +パロノセトロン0.75mg +デキサート 3.3mg×2A 点滴静注【30分】	○										○
	⑤5%ブドウ糖500mL +オキサリプラチン(130mg/m <sup>2</sup> ) 点滴静注【2時間】	○										○
	⑥生食50mL ルートフラッシュ用(全開)	○										○

☆ゼローダ錠：体表面積にあわせて、朝・夕食後30分以内に1日2回14日間連日経口投与し、7日間休薬

体表面積	1回服用量	減量段階1	減量段階2
1.36m <sup>2</sup> 未満	1,200mg(4錠)	900mg(3錠)	600mg(2錠)
1.36m <sup>2</sup> 以上1.41m <sup>2</sup> 未満	1,500mg(5錠)		
1.41m <sup>2</sup> 以上1.51m <sup>2</sup> 未満		1,200mg(4錠)	
1.51m <sup>2</sup> 以上1.66m <sup>2</sup> 未満			900mg(3錠)
1.66m <sup>2</sup> 以上1.81m <sup>2</sup> 未満	1,800mg(6錠)		
1.81m <sup>2</sup> 以上1.96m <sup>2</sup> 未満		1,500mg(5錠)	
1.96m <sup>2</sup> 以上2.11m <sup>2</sup> 未満	2,100mg(7錠)		1,200mg(4錠)
2.11m <sup>2</sup> 以上			

## 看護のPoint!!

ゼローダで皮膚障害や下痢の可能性もある。持参薬にワーファリンがあれば主治医に報告(ゼローダとの相互作用あり)

オキサリプラチンによる過敏症症状に注意。呼吸困難感、かゆみ、発赤、皮疹など。

主治医に報告し、次回からファモチジン注とボラミン注の前投与を考慮する。(ガモファー錠と材料に錠でも可能)

オキサリプラチンによって末梢神経障害が起こりやすい。まずは冷たいものの接触を避ける。

末梢からオキサリプラチン投与時、血管痛あるかも。温めてあげたり投与時間をゆっくりにしてあげる。

免疫調節薬があるので、免疫関連の副作用が起こる

Infusion reactionに注意

主な副作用は皮膚障害、甲状腺機能低下、下痢、間質性肺炎

下痢の時はステロイドを使用(止痢剤ではない。大腸炎のため)